

## 長崎大学病院

# 感染症専門医を養成、確保して 医療の質の向上と診療の効率化を推進する

新型コロナウイルスの感染拡大で感染症専門医の重要性が改めて認識された。しかしこれまで、様々な感染症に対して有効な治療薬が開発され、感染症専門医育成は滞っていた。次なる感染症の拡大に備えて、今、感染症に関する専門性を高めた医師を養成、確保しておくべきである。

2020年以來の新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、日本でもいくつかの波を作りながら感染が拡大し、医療機関のみならず教育機関や高齢者施設などが対応に混乱をきたしたことは記憶に新しい。

医療機関の感染制御チーム(ICT: Infection Control Team)を強化するため、感染症専門医への期待が高まっている。従来の手指消毒や施設内の環境整備にとどまらず、より有効な感染防止策を提案・実施するとともに、過剰な対応を緩和する判断が期待されている。このニーズに対応しようと大学などは感染症専門医の養成に注力している。

### ■ 複数の診療科・部門に 感染症専門医が所属

長崎大学医学部は旧六医大として知られるが、実は日本最古の医学教育機関の1つだ。その開学記念日はポンペが医学伝習所で講義を開講した1857年11月12日としている。年号で言えば安政4年、当時の長崎では出島や唐人屋敷でオランダ人や中国人と貿易を行っていた。

外国人と接触するため未知の感染症、コレラなどへの対応が重要となる。長崎大学医学部が感染症を重視してきた起点はここにあり、アフリカ

をはじめとした発展途上国の感染症対策に取り組む同大学熱帯医学研究所などへと継承されている。

また、同大学OBの感染症専門医は日本全国で活躍している。長崎大学病院感染制御教育センターのセンター長・泉川公一氏は次のように現状を紹介する。

「私は第二内科呼吸器内科の出身ですが、同科のホームページに先代の河野茂先生が教授に就任してから誕生した49名の出身教授の名前が掲出されています(<https://www.med.nagasaki-u.ac.jp/intmed-2/graduate.html>、2023年10月現在)。本学以外にも各地の大学で教授や国立感染症研究所の部長などを務めています」。

長崎大学の感染症専門医が所属しているのは、第二内科呼吸器内科だけではない。感染症内科、小児科、検査部、泉川氏の感染制御教育センターなど複数の診療科・部門にわたり、その人数は10人以上に上る(図)。

「第二内科呼吸器内科には感染症グループがあり肺炎などの呼吸器感染症や血液領域の担当をしています。一方、感染症内科は救命救急や整形外科を中心に多くの診療科に協力をしています。感染制御教育センターはICTのほか血液領域や集中治療室などへのコンサルテーションも担当して



長崎大学病院感染制御教育センター  
センター長  
泉川 公一 氏

います」(泉川氏)。

### ■ 感染症専門医の役割は 院内外で多岐にわたる

感染症専門医の役割は院外と院内に分けられる。

院外では、地域貢献として耐性菌のアウトブレイクへの対応などが挙げられる。診療報酬に感染対策向上加算があり、地域の医療機関の感染対策などを支援する。

「コロナ禍では高齢者施設などでクラスターが発生したため、私たちも感染拡大抑止に協力しました。こちらは主に県の事業として委託料を得られますが、高齢者施設側は医療機関の感染対策向上加算に対応するものがないので持ち出しになり、対応を徹底できない印象があります」(泉川氏)。

院内では、ICTや他の診療科へのコンサルテーションが主になる。「感

感染症専門医が診療に介入することで、術後感染症の抑制や在院日数短縮などのメリットについてエビデンスを明らかにして、評価してもらう必要性を感じています」(泉川氏)。

### ■ 所属医師を研修に派遣し 感染症の専門性を高める

患者に提供する医療の質と、医療機関の診療効率を向上させる対応は全ての医療機関に必要なことである。

「新型コロナウイルスがまだ未知のものだった初期には、患者さんが持ってきた書類からも感染する可能性を疑って、病院スタッフは直に触らないようにしていました。このような過剰対応の緩和を進めるとともに、新たな感染症が流行しそうになったときに、初期のコロナ対応をベースにして速やかに厳戒態勢をとれる指揮者が必要です」(泉川氏)。

長崎大学でも呼吸器内科や小児科に感染症専門医がいるように、何らかの専門領域を持ちながら感染症に対する専門性を高めていくことも有効だと思われる。

「現状は感染症専門医は専門医機構の2階部分になっています。内科



長崎大学病院の外観。同病院の起源は日本初の西洋式近代病院の「養生所」

の専門医は積み上げられますが、外科など他の領域の専門医にも必要な資格だと思います。感染症は臓器にかかわらず全身を診ていくことも必要なので、1階部分に下ろしてもらってもよいほどだと思います」(泉川氏)。

長崎大学では感染症医療人育成センター(古本朗嗣センター長)を開設し、感染症専門医資格取得者数をKPIにして取り組みを進めている。内科認定医、内科専門医などを対象にした「感染症専門医コース」を主軸に、様々なコースを用意している。

同センターでは、先に紹介した感

染症専門医が所属する5診療科・部門に加えて国立国際医療研究センター病院などでも研修が可能だ。「HIVなどは県内の症例が少ないため、大都市圏の医療機関で症例経験できるようにしています。感染症領域全般の高度な知識に加えて、既にお持ちの専門領域の診療に直結する症例経験も可能です」(泉川氏)。

新型コロナウイルス感染症対応が軌道に乗ったこの時期、次の未知の感染症に備えて、育成を含めた感染症専門医の確保が、急性期病院を含めた医療機関に求められている。

図 長崎大学医学部、長崎大学病院の機構図(感染症に関係するものを抜粋、2023年9月1日現在)

